

世界の農業機械

—Slurry spreading—たこあし型のスラリスプレッダ

トラムスブレッド (Tramsread) 社が新型スラリスプレッダ「オクトパス2000 トレイリング・シュー・ブーム・スプレッダ」を販売した。

オランダのメーカー、システム・バース (System Baars) 社製の本機はトラクタ直装型で、作業幅は12mおよび15m。引きずられて進む“靴”の形をした散布装置が25cm間隔で並んでいる。散布装置を靴型にすることで、糞尿を葉の上ではなく、作物の間の土壤に直接散布することが可能となった。

糞尿はPTO駆動ポンプで油圧式混合かく拌装置に運ばれ、その後パイプを通して散布装置に回る。作業幅内であればどの位置にでも正確に、そして一定に散布できる。散布装置を支えるブームは車輪軸によって作業高を変えられ、枕地で向きを変える際には機械が持ち上がる。

本機は牽引に約120馬力以上のトラクタが必要。(FW 4/16号)



作業幅が12mおよび15mの「オクトパス2000トレイリング・シュー・ブーム・スプレッダ」がトラムスブレッド社より販売。

—Fast-and-shallow fashion— 高速浅耕カルチベータ



クバーネランド社の「DSA」カルチベータの新シリーズは、高速浅耕型。作業幅はモデルごとに3mから6mまで。切り株がある圃場、プラウをかけた後の圃場に最適。

ディスクを大型にするなど、作業に応じ豊富なオプションで仕様を変えられる。「DAS」のシリーズの作業幅は3mから6mまでで、大型モデルは搬送時油圧によって折り畳まれ、幅がわずか2.5mになる。(FW 5/28号)

高速走行で浅耕するスタブルカルチベータが大流行のようだ。クベールネランド (Kverneland) 社もこの流行を逃さず、新型の浅耕ディスクカルチベータ「DSA」を発売した。

機体の前列には直径50mmのノコギリ刃状のディスクが2列並び、土壤の碎土、かく拌を行う。鎮圧ローラの形状は、カゴ型、写真にあるらせん型、パッカー型の各タイプから選べる。ディスクごとに荷重制御装置が付く。土壤の状況に応じた微調整ができるように、作業者は機械式あるいは油圧で各列のディスクの角度を任意で変えられる。

—Six-row sugar— 燃費が向上した6条型ビートハーベスタ

スタンデン・リフレックス (STANDEN REFLEX) 社が6条型ビートタンカーハーベスタ「ザ・ホーマー・テラードス」の新型モデルを販売する。圃場での様々な運転性能が改善されたという。

大きな改良点が燃費の向上だ。1ha当たり30～35ℓの燃料消費で済む。これはマン (MAN) 社製460馬力エンジンのトルクを安定させ、作業中の回転数をわずか1,400回転に抑えたことによる。電子制御を導入し、アクセル操作にエンジンパワーが敏感に反応するようになった。

その他の改良点は、油圧システムを大幅に効率化させたこと。オイルフィルタと冷却装置が改良され、油圧装置のオイル交換は3年に1回でよい。

新しいウォーキングシェア・リフターは遊びの幅が広がり、これにより収量増加、きれいな形での掘り上げ、土塊の吸い込みの減少につながる。シェアとシェア・レッグも改良され、機械の性能アップに貢献している。(FW 5/14号)



スタンデン・リフレックス社の新型6条型ハーベスタ「ザ・ホーマー・テラードス」。燃費が向上した。

資材トレンド

このコーナーでは、「ファーマーズ・ウィークリー」誌を中心に、本誌が注目した世界の農業機械・資材情報をお伝えします。

—RECO WIDENS— 車体と荷台が一体化したマニュアルスプレッダ



レコ社の「ジーンティル」スプレッダに容量6tの新モデル「EVR8-6」が登場

レコ (RECO) 社の後方散布型マニュアルスプレッダ「ジーンティル」のシリーズに新しいラインアップが加わった。容積が8ℓで容量が6tなので、「EVR8-6」と名付けられた。

シリーズの他のモデルと同様、シャーシと荷台の床面と側面が溶接された一体型の構造で、頑丈かつ軽量の構造だという。凹凸のない側面は機体に汚れがこびつかないようにする工夫の一つだそうだ。

堆肥は油圧駆動式スラットチェーンによって後部の散布装置に搬送され、2列の縦軸ビータによって最大幅12mで散布される。機械駆動式ビータは堆肥の種類に応じて、パドルを交換することもできる。

この「EVR8-6」モデルが加わることで、「ジーンティル」のシリーズは容量が6tから14tまで揃うことになる。(FW 4/9号)

—Add polish—見た目と棚持ちを良くする野菜洗浄機

ニュージーランドで製造されたワイマ (Wyma) 社の野菜洗浄機がこのほどイギリスで販売される。本機は洗浄による“傷み”を防止し、商品の市場価値を高める。特に傷みでロスが出やすい白ニンジンやジャガイモに効果的。

14列のロータリブラシが並ぶ樽型洗浄槽が、ブラシと反対方向に回転するが、野菜はこの中を通りながらミストスプレーで洗浄される。これだと、汚れがたまる洗浄水に浸すよりもきれいに洗浄でき、従来の洗浄機にはよく見られた黒ずみも付かずに済むと同社では話す。乾燥すると目立つ白ニンジンの白い表皮も取り除ける。ジャガイモの目のへこみの泥も落ち、表皮にはツヤが出せる。

ブラシの種類も豊富で、洗浄槽の回転速度も調整可能。表皮にキズがつく心配がほとんどない。表皮の弱い早生の作物も難なく扱えるという。最大のモデルは10tの容量がある。(FW 5/14号)



ワイマ社の野菜洗浄機は表皮のキズを防止し、白ニンジン、ジャガイモなどの商品価値と棚持ちを良くする。



ハーバート社の「オート・ソート」は、3台の高画像カメラでジャガイモを3等級に選別する。

—It's robospud— ジャガイモの自動選別機

ハーバート (Herbert) 社製のジャガイモ選別機「オート・ソート」は、自動で傷モノのイモを選別する画期的な選別機だ。洗浄されたイモは、コンベヤー上で整列され、3台の高解像度カメラが待つボックスまで運ばれる。イモごとに最高16枚の画像で記録されると、情報がコンピュータに転送され、設定した数値によって等級付けがされる。未熟イモ、腐り、ヒビ、傷、病気、変色などの欠陥が検出できる。イモの大きさ、重量による選別も可能。気圧制御アームが、コンピュータが判断した等級 (優、良、不可) に応じて3つのラインに選別する。

タッチスクリーンの制御装置で作業モニターや数値の変更も簡単にできる。

欠陥イモの75%以上を選別できる精度は、人間よりも正確で信頼性があると同社は話す。(FW 5/14号)